6th 新響

東京労音新交響楽団第1オーケストラ

第6回定期演奏会

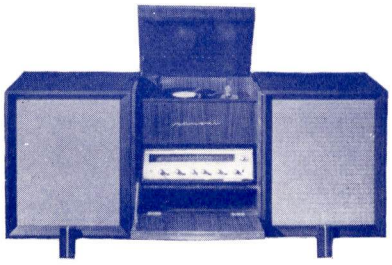


新発売！FMマルチ組込みの高級セパレートステレオ！

- 無共振パイプアームと最高級ムービングマグネット・カートリッジつき
- セパレーション35dB を誇るＦＭマルチつき出力32W型アンプ
- コンデンサーツィーター採用の３ウエイ・６スピーカーシステム



近日発売！APS-420 DELUXE



APS-410

〈姉妹機〉　出力12W

■特　徴

●高性能ＦＭマルチステレオ回路内蔵●ハイパワー・32W(16W×２)低歪率１％以下（26W出力時）●ハム絶無、高精度ＴＲヘッドアンプ組込み●わかりやすいＦＭマルチステレオ・インジケーター●フレクション式トーンコントロール採用●スクラッチ・ランブルフィルターつき・文字が浮き上る新ダイアル機構●ラウドネス、ＡＦＣ、テープモニター回路完備●コンデンサツィーターつき３ウエイ・６スピーカーシステム●ＦＬＢ方式のエンクロージュア●無共振パイプアームと最高級ムービングマグネット・カートリッジ採用。

■規　格

使用真空管　15球16石　最大出力６ＢＭＰＲ×２　16W×２(32W)　周波数特性20～80K～2db以内　歪率　１％以下(26W出力時)　入力端子 PHONO (MAG, X-TAL　TAPE (MIC AUX　TAPEMON-IN, OUT, トーンコントロールＣＲ型　受信周波数ＦＭ76～90M、ＡＭ535～1605K、感度　ＦＭ3.5μＶ以上 (s／n20db) ＡＭ60μＶ以上、ＦＭマルチプレックス　ＦＣＣ方式　チャンネルセパレーション　35db(１Ｖ入力　１K)　歪率　１％以下(0.3Ｖ入力)　●**プレイヤー**　４極インダクションフォノモーター、25cmダイキャストターンテーブル　ジャイロサポート方式ダイナミックバランスアーム　４コイルムービングマグネット型カートリッジ(ダイヤ針付)　針圧 3.5g　周波数特性30～20K●**スピーカー**　ウーファー20cm　スコーカー10cm　ツィーターコンデンサー型　再生周波数 40～20K　入力 最大16W　ＦＬＢ方式エンクロージュア　　寸法　巾1460×高さ 650×奥行 390(㎜)

＊音づくりのエリート！

サンスイ

㊎山水電気株式会社

本　　社　東京都杉並区和泉町460番地　☎(328)0111
ショールーム　東京都新宿区三光町電停前　☎(368)4586

お知らせ

Hi-Fiステレオレコードによる……

第３回 名曲コンサート

日時　７月６日(月)　午后６時開場
場所　新宿・紀の国屋ホール(４階)
主催　山水電気・東京放送

■ご来場ご希望の方は、往復ハガキで本社・宣伝課名曲サロン係迄。

■〆切　６月25日必着抽選400名様ご招待

第１部　公開録音
「山水名曲サロン(名曲コンサート)」
司会　芥川也寸志氏

第２部　オーディオ・セミナー
「Hi-Fi再生のポイント〈プレイヤー〉」
講師　江川三郎氏

第３部
「動く音と音楽（汽車と共に）」
解説　團司平通氏

※抽選・賞品贈呈（アンプ等多数）

東京労音 新交響楽団 第1オーケストラ 第6回定期演奏会

曲目

● PROGRAM ●

1. 狂詩曲 エスパナ　　シャブリエ
RHAPSODY ESPANA　　E. Chabrier

2. ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18　　ラフマニノフ
PIANO CONCERTO No. 2　　S. Rachmaninoff

Ⅰ. 中庸の速さで
Moderato

Ⅱ. ごく、ゆっくりと
Adagio sostenuto

Ⅲ. 速く、かいがゃく的に
Allegro scherzando

3. 交響曲第1番 ハ短調 作品68　　ブラームス
SYMPHONY No. 1　　J. Brahms

Ⅰ. 音を保持して、急速に
Un Poco sostenuto, Allegro

Ⅱ. ゆっくりと音を保持して
Andante sostenuto

Ⅲ. 少し速く優美に
Un poco Allegretto e grazioso
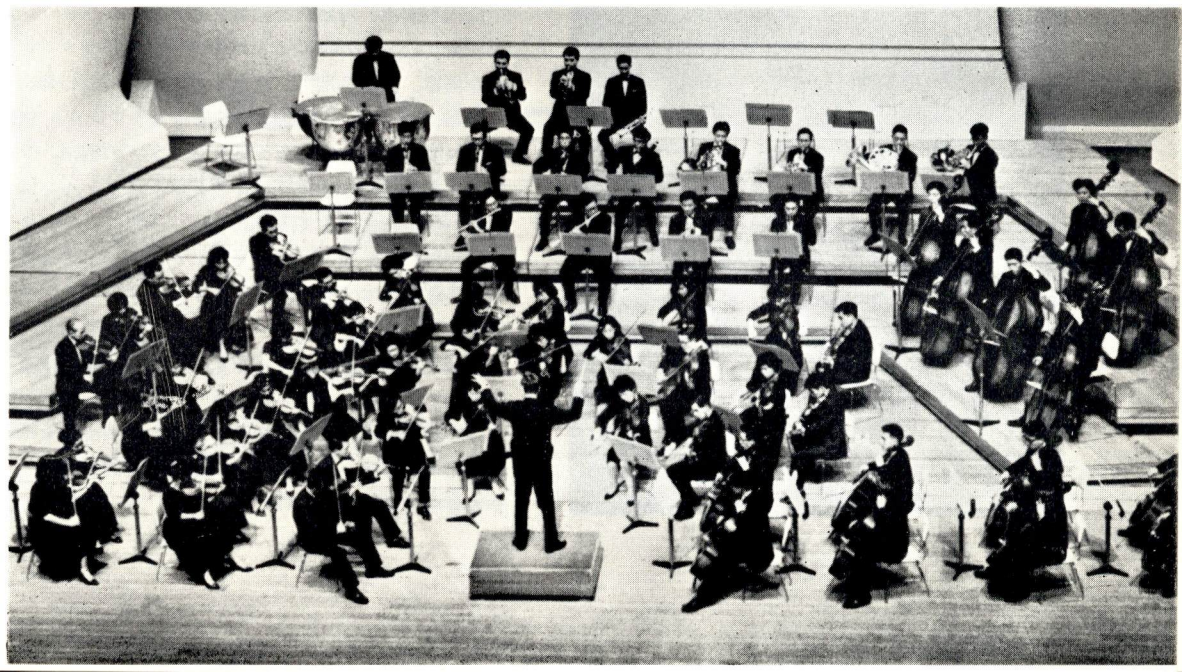
Ⅳ. ゆるやかに、速く快活に
Adagio, Allegro non troppo, ma con brio

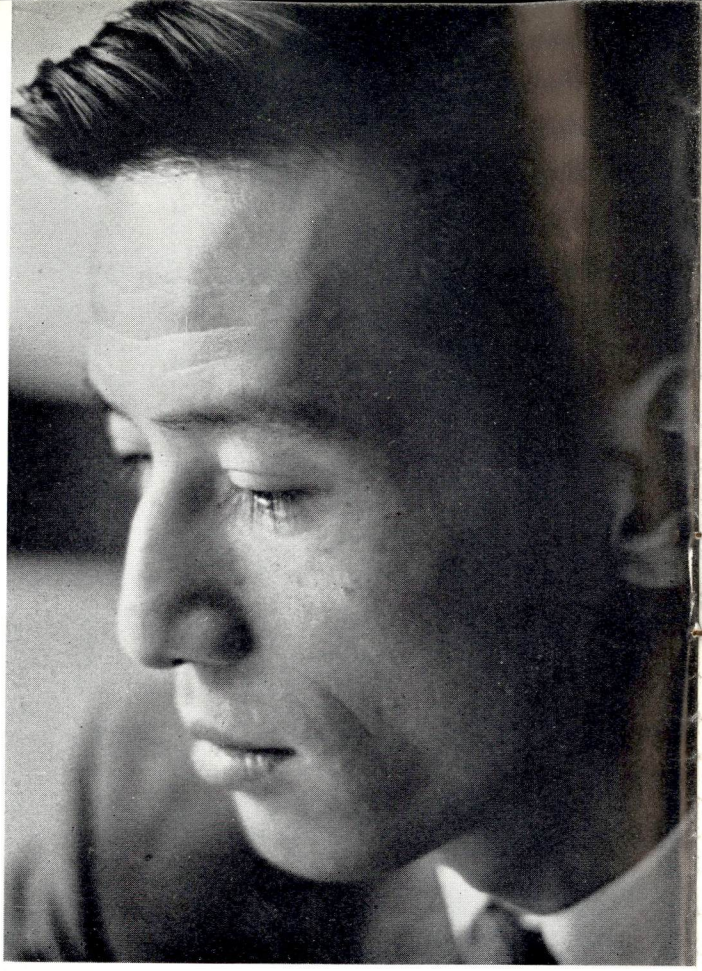
'64・5月25日・日比谷公会堂・午後7時

独奏　井内澄子

指揮　芥川也寸志

演奏　東京労音 新交響楽団第1オーケストラ





芥 川 也寸志

大正14年文豪芥川竜之介の三男として東京に生まれた。昭和24年東京音楽学校研究科作曲部を卒業、井口基成にピアノ、金子登に指揮、伊福部昭に作曲を師事した。

作品にはピアノ組曲「踊り」「交響三章」歌曲集「車鹿車」、「交響管絃楽のための音楽」、バレエ音楽「失楽園」、オペラ「暗い鏡」、「河童」、映画音楽「煙突の見える場所」「雲流れる果てに」その他多くある。また、NHKテレビの「赤穂浪士」では音楽を担当し、さらにNTVのヒット番組「私のクイズ」で司会者をつとめるなど正に行くところ可ならざるはなしとばかり活躍。最近は映画に主演の話もあるとか。

その超人的なスケジュールに囲まれていながら、週1回ないし2回の新響練習日には必ず定刻前にどこからともなく姿を現わし、遅刻者をふるえ上らせているのである。



井 内 澄 子

東京生れ。5才からピアノを始め、芸大入学まで高折宮次に師事。芸大ではクロイツァ教授の他、中山清子、伊達純に師事。在学中にクロイツァ教授指揮の東響と、ベートーヴェン・ピアノ協奏曲第四番の協演でデビューし、東響定期出演、N響東フィルとの協演など演奏活動を始める。

芸大卒業後、西独政府給費生として、ミュンヘン国立音楽大学に留学し、1957年にはミュンヘン国際音楽コンクールで2等賞を獲得、西独各地で、放送や演奏会を行ない帰国。

1958、59年は、日本全国各都市でリサイタルを開き、その他、N響定期に出演、各オーケストラとの協演、ラジオ・テレビなどで活躍して1959年末に再渡欧。ミュンヘン国立音楽大学研究科に特待生として入学。

1960年には、西ドイツ音楽コンクールで1等賞を得、西ドイツの各都市でリサイタルや、数多くのオーケストラとの協演、放送などで活躍。ユーゴースラヴィアにも招待され、ベオグラード他各都市でリサイタルやオーケストラとの協演で大成功をおさめた。

1962年再び帰国し、ラジオ・テレビで演奏するほか、N響、京響その他各オーケストラとの協演、全国各地でのリサイタルや協奏曲で活躍をつづけている。

本物の音楽を追求する「新響」への期待

菅野浩和

最近のわが国の音楽の隆盛ぶりはどうだろう。東京では毎晩四つも五つも演奏会が重複して開かれるし、街を歩くとピアノやバイオリンのおけいこの音が漏れてくる。デパートでもレストランでも観光地のバスや休憩所でも、音楽は鳴りつづけである。

しかし、果して現在が本当の意味で、音楽の隆盛時代だろうか。私にはどうしてもそう思えない。むしろ、今日ほど音楽が本来の芸術的な意味を失って、うわべだけのムードとして扱われているときはないと思う。おけいこごとなど、芸術探求ではなくて一種のアクセサリーだし、テレビやラジオの音楽のほとんどは、商業広告の道具にすぎない。

このような、音楽にとっての不遇時代に、真に音楽の芸術性を追求できる、また追求しているものの一つとして、アマチュアのオーケストラやコーラス活動をあげないわけにはゆかない。プロフェッショナルならば、もっと上手になって、よりいっそう売れるようにとか、もっと高いギャラを取れるようにしようといった魂胆が起るところを、アマチュアの場合は、上手になろうということ、イコール、芸術性の追求と一致しているのである。

ところで、今夜ここで演奏会を開く労音新響も、まさしくいま述べた性格をもつ、すなわち、純粋に芸術性の探求だけに打ちこんでいる団体である。私は昨年の3月、このオーケストラの演奏会を聞いたときに、それは技術的には専門のオーケストラにはかなわなくとも、そこに注ぎ、集められている、音楽に対するひたむきな情熱は、職業団体には見られないほど熱く、純粋なものだということを知り、まさしくこれこそ真の音楽だと感じた。

職業オーケストラより楽器は悪い、楽員の技術も未完成であるのに、どうしてそれが本物の音楽になるのだろうか。そもそも音楽というものは、鳴らされる音の響きそのものではなくて、それが聴き手の感覚に作用して、精神に働らきかけを行い、その結果ひきおこされる精神作用が演奏会の印象となる。すると鳴らされた音そのものは、音の高さとか、振動の波型といった、物理的な条項からは欠点はあっても、科学では捉えにくい、微妙な、しかし重要な要素、たとえば音と音との間合いとか、緊迫感のあまり、多少の音がその拍よりもずれているとかいったことが、意外に大きく作用し、ときには物理的事項の欠点を補って、聴き手により大きな作用を与えることが充分考えられる。流暢無難なアナウンサーの語りがおよそつまらないのと対照的に、訥弁のなかに切々と人を打つことが多いのと同じである。

ところで、昨年聞いたこのオーケストラの演奏会が印象ぶかかったことの理由のもう一つに、芥川也寸志の指揮をあげなければならない。アマチュアとプロフェッショナルとを問わず、その団体の芸術的性格を決めるのは指揮者である。芥川也寸志のあのときの指揮で私がいちばん感心したことは、アマチュアだからといった迎合、妥協がいささかもなく、そこには芸術と対峙する姿だけがあった。芸術の前に立ったときには、アマチュアとかプロフェッショナルといった区別は意味を失ってしまうことをはっきりと示してくれた。したがって、妥協のない指揮ぶりからは、演奏に多少の破綻を来したところもあった。しかし、常に芸術が水割りされない形で存在していたことのほうが大きかった。

こまかい点だが、昨年の演奏会で、芥川氏は暗譜で指揮をした。職業指揮者の中にベートーベンをさえ暗譜しない人がいるのに、指揮活動のみに明け暮れているわけでない芥川氏が、譜面台を取り払ったのだ。その瞬間に、芥川氏は、作曲家・芥川也寸志ではなくて、完全な指揮者・芥川也寸志になっていた。果せるかな、そこで振られた棒は、指揮者・芥川也寸志の棒だった。

だいぶ長くなった。月並みな期待、激励のことばを記すことは苦手なので、それに代えて、勝手な随想を綴らせていただいた次第である。

（音楽評論家）

新響よ、さらに躍進して下さい

桜井武雄

もう5，6年まえのことになるでしょう。渋谷にあった練習所からの帰りみち、これからの「新響」のあり方について、芥川さんは驚ろくばかりの真剣さで、その悩みと抱負を語りつづけました。悩みながら、眼を輝やかせて語る、ほんとうに素晴しいことです。

やがて第2、第3オーケストラの誕生、そして昨年の第9への道……。ほんとうに素晴しいことです。交通地獄の中を大きな楽器をかかえて集まってくる団員の皆さん。また、それに挑戦するかのように、多忙な時間をさいて駈けつける新響指揮者芥川也寸志さん。

そのどちらを欠いても今日の「新響」はあり得なかったでしょうし、また未来の新響を考えることはできません。

「アマチュアだから……」に甘えないで、プロのまねごとなんかに終らないで、しかもプロに迫って、わが新響は前進をつづけることでしょう。

新響の皆さん、あなた方のなさっていることがどんなに素晴しいことか、また新響指揮者として、芥川さんがどんなにかけがえのない人か、遠く離れて眺めているぼくには、いっそうよくわかるような気がするのです。

芥川さんはいうでしょう「Over だよ」……。でも、ほんとうにそうなのです。おめでとう！　新響のみなさん。おめでとう！　芥川さん。新響らしい、素敵なブラームスを聞かせて下さい。

（団友　京都市立音楽短大教授）

曲目解説

シャブリエ

狂　詩　曲「スペイン」

エマヌエル・シャブリエ（1841～1894）は40才になるまではほとんど無名の素人作曲家で、役人をするかたわら作品を書いておりました。しかし、1882年のスペイン旅行は、彼の名を後世にとどめた代表作であるこの狂詩曲『スペイン』を書く直接のきっかけとなった記念すべきできごとでした。彼ははげしい情熱的なスペインの民族舞踊に強く引きつけられ、大衆のための舞踏会にひんぱんに通ってあの特徴あるリズムとメロディーを書きとり、翌年パリに帰るとすぐにこれをピアノのためのファンタジーにまとめました。これはすぐに作曲者自身の手によって色彩的な見事な管弦楽曲に作り直され、1883年11月にパリで行われた初演では熱狂的な歓迎を受けました。

曲は弦楽器のピチカートにはじまる速い3拍子で、スペインのはげしい民族舞踊である「ホタ」と「マラゲーニャ」とがたくみにおりまぜられています。

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲第二番　ハ短調　作品18

映画音楽としてたびたび用いられ、ポピュラーソングに編曲されるなど、この曲の甘い抒情的なメロディーは広く人々に親しまれています。

セルゲイ・ラフマニノフ（1879～1943）は管弦楽や声楽の作品も作りましたが、やはり自分自身がすぐれたピアニストであったために、ピアノの曲に傑作が多いようです。ピアノ協奏曲第二番は彼の出世作であると同時に、古今のピアノ協奏曲の中でも最も演奏回数の多いものの一つです。

この曲は1899年，彼の26才のときに着手されたのですが、2年前に第1交響曲で失敗した彼は当時ひどい憂うつ症に悩んでおり、精神医の世話になるほどでした。ところがラフマニノフを診察したモスクワの精神病療法の名医ダール博士は奇抜な方法で彼の病をなおしただけでなく、あの第二ピアノ協奏曲を書く直接のきっかけをも与えたのでした。博士の治療法というのは、あなたはコンチェルトを書き始めるでしょう……。あなたはスラスラと作曲するでしょう……このコンチェルトはすばらしいものになるでしょう」といったようなことをたえずくり返し聞かせることだったのです。創作力をとり戻したラフマニノフは、1901年にこの協奏曲を見事に完成し、これを恩人ダール博士にささげたのでした。

第一楽章は「中庸に」と指定されたハ短調2分の2拍子。はじめの8小節はピアノだけで重く暗い鐘のような音が次第に大きさを増しながらくりかえされ、すぐに力強い第一主題がオーケストラにあらわれます。第二主題はビオラに導かれた独奏ピアノにまず出ますが、甘くすいこまれるようなラフマニノフ独特の美しい旋律です。この主題がいろいろと変化をつけてあらわれる展開部をすぎると、第一主題がこんどはソロピアノの堂々としたマーチ風のリズムになってもどってきます。

第二楽章はごくゆっくりとした4拍子。弱音器つきの弦楽器を中心としたやわらかいコードが一楽章の終りのハ短調からごく自然にホ長調に導き、ピアノの分散和音の上をフルートとクラリネットが交互に夢のような抒情的なふしをかなでます。これはピアノでくりかえされたあと、名人芸を見せびらかすような速い中間部をはさんで、再びゆっくりとしたはじめの旋律にかえって、静かに終ります。

〔戸　田　昌　宏〕

「新響」のビジョン

わが新響は昭和三十年に始まったアンサンブルがオーケストラとなり、その後体質改善を行なって第一第二第三に分離するという過程をへてきました。これは、オーケストラ界では初めての試みであり、それから三年を経過したわけですが、この試みがある程度成功したものの、いまだ多くの問題点を残したまま今日にいたっております。

われわれが理想とする団員構成は、上に高く、底に広いというピラミッドのような型ですが、このようになるには、なお年月を要すると思います。しかし近い将来において、必ず達成されるものと確信しています。

労音の組織が全国にゆきわたっているように、われわれのごときアマチュア・オーケストラがたくさんできて横のつながりを持ち、さらに発展して労音のような組織を持ちたいものです。

本日演奏する第一オーケストラは、新響のなかにおいて、演奏活動を主目的とした団体でありますので、当然技術的な面も重くみられます。団員個人に対する注文も相当きびしいのですが、私たちは、たとえアマチュアであっても、その音楽にはプロとアマとの区別はないと考え、さらにいっそうの発展のために、また明日からトレーニングに励むつもりです。

どうか今後とも、私たちの活動にご批判ご指導のほどをお願いいたします。

（第一オーケストラ委員長）



＜ブラームス＞

第三楽章はホ長調ではじまり、すぐに元のハ短調に戻ると急速なクレッシェンドに続いて嵐のようなピアノのグリッサンド風のソロがあらわれます。速い第一主題のあとには、ややゆっくりとしたエキゾチックな、しかしこれもあくまで甘さの強い第二主題がビオラとオーボエによって奏されますが、これは全曲を通じて最も有名なメロディーです。続いてこれを追うソロピアノは、さらに緩急おりまぜた色彩的な展開をみせ、最も高度なテクニックが要求される楽章とされています。最後は、速度も速まり、全合奏の強音で華やかに曲を閉じます。

ブラームス
交響曲第一番 ハ短調 作品68

この偉大な交響曲はベートーベンの残した九つの不滅の交響曲と非常にしばしば比較され、大指揮者ハンス・フォン・ビュローによってベートーベンの「第十交響曲」と呼ばれたことは、有名な事実であります。

ヨハネス・ブラームスは1833年5月、北ドイツのハンブルグに生まれ、若いころリスト、シューマンなどと親交をもちましたが、第一交響曲は23才の青年時代に作曲を思いたったにもかかわらず、実に21年後の1876年にようやく完成するにいたりました。その長い間、彼はひたすら尊敬するベートーベンの交響曲に劣らないために書きなおし考えなおす努力を続けていました。だから、はじめに述べたような事実はブラームスにとって誠に本望というべきでしょう。

43年の人生経験を北ドイツ人に特有なくすんだ重々しい表現によって構成したこの第一交響曲は、あるいはつかみにくく近よりがたい印象を人に与えるかも知れませんが、かみしめるほどに深い味わいがあり、ベートーベンの精神にまでつながるこの名曲のすばらしさは音楽を愛する人々に共通な感動を呼びおこすことは疑いありません。

第一楽章はハ短調。ブラームスの四つの交響曲中、これだけが序奏をもっており、それはティンパニーの連打をともなう悲劇の序曲のような強烈な8分の6拍子の上昇音型に始まっています。37小節にわたるこの序奏がいったん静かになるとすぐ速い主部が続きます。第一楽章全体の基本動機ともいうべき半音階的な上昇音型がまず木管によって出され、すぐにバイオリンではげしい第一主題が奏されます。この楽章はほとんど正統的なソナタ形式によっており、コーダの終末には序奏のメロディーが静かに再現されておわります。

第二楽章はホ長調4分の3拍子。美しい第一のメロディーがすぐに第一バイオリンにあらわれ、たゆたうようにとぎれがちになるとオーボェにこれもきわめて夢幻的な第2の旋律があらわれます。次いで、第3第4と続けて、おしげもなくすばらしい旋律がつぎこまれ、最後はホルンを伴なうバイオリンのソロで第2のメロディーが反復されて消えていきます。

第三楽章は変イ長調4分の2拍子。優雅でむしろ明るささえ感じられる楽章で、次の劇的な楽章の前におかれていっそう効果的です。ロ長調8分の6拍子のトリオをはさんだ短かい曲です。

第四楽章は再びハ短調。低い弦楽器の絶望的な下降に始まり、しばらくはゆっくりとした静かな動きが続くかと思うと、いきなり全弦楽器の急に速くなるピッチカートが聞く人をおどろかせます。続いて曲はハ長調に変わり、ホルンに突然朗々としたブラームス特有のメロディーが出て、これはフルートに受けつがれます。これがひとしきりすぎると、この曲中で最も有名なメロディーがバイオリンのG線の解放弦から生々と始まり、いよいよベートーベンの第九交響曲さながらに歓喜の終末に向ってつき進んで行きます。

最後はプレストにまで速度が高められ、全オーケストラの強奏の和音で圧倒的にこの大曲を閉じます。

（仙　名）

東京労音
新交響楽団の第六回定期演奏会によせて
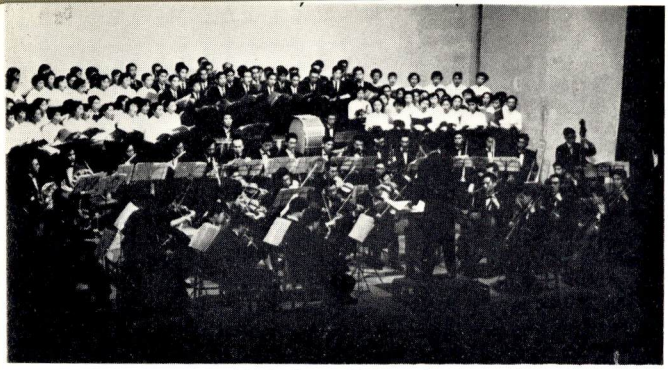
東京労音委員長　**山崎定尾**

第六回演奏会おめでとう。

新交響楽団が働くもののオーケストラ運動として、昭和三十一年二月、労音会員有志によって労音アンサンブルが結成されてから、労音運動の発展とともに現在にいたったことをよろこんでいます。

新交響楽団のこれからの発展は―今までもそうであったように―ますます発展する労音運動と固く結合していくことにあります。労音は、三年前、労音運動の基本任務を定めていらい、一〇〇万人の労音運動をスローガンに日本民族の進歩的音楽運動の伝統を受つぎ、発展させるための活動を全国津々浦々でおこなっています。

新交響楽団のみなさんが労音運動を深く理解し、より高い技術を日々のきびしい訓練で身につけ、すばらしいオーケストラをつくってくださることを期待しています。



<1957年の第1回定期演奏会>

新響のあゆんできた道

日本にはアマチュアのオーケストラが数多くあります。その大部分は小編成ですが、完全な2管編成以上のオーケストラもかなりあります。しかし私たちの"新響"のように四つの楽団から成り立っているオーケストラは例がないでしょう。

<そのスタート> いまから8年前の1956年8月に、それまでの"労音アンサンブル"を"新響"（正しくは東京労音新交響楽団）と改めたとき、新響は一つしかありませんでした。いや、一つというより半分といった方が正しいかもしれません。ほとんどすべてのアマチュアオーケストラが味わうパートのアンバランス——高価な楽器や難かしい技術を要求される楽器の不足——は新響においても例外ではありませんでした。不完全なのは編成ばかりでなく、その合奏技術もいまより数等ひくかった当時の新響を芥川先生は実に根気よく——足りないパートは口三味線で、弾けないところはドレミファの練習から——指導され、翌1957年11月にはなんとか第1回定期演奏会を開くことができました。さらにその翌年11月に行なわれた第2回定期演奏会は、第1回に比べるとかなりの進歩を見せたと思います。

<最初のなやみ> ところが、この第2回演奏会以後新響の進歩の速度は鈍ってきました。そのころでは新しく入団する人がかなり多くなったのに、入団後間もなく止めたり、また古いメンバーで退団する人もあって、結局はあまりメンバーが増えないという状態がつづいたのです。このような現象はどのアマチュアオーケストラにも共通する問題です。一つは、必要以上のメンバーが集まったパートをどうするか、もう一つは個人の技術差が大きい状態でどうやってオーケストラ全体のレベルを高めてゆくか、という問題です。

2、3名で十分なパートに必要以上の人数が集まった場合、そのパートでは曲目により、あるいは練習日によりメンバーを替えるなどしてパート内の全員がなるべく平等に練習できるようにするわけですが、それも限度があります。では、そのようなパートは必要人数（定員）に達したら以後入団を断わったらどうでしょうか。この方法は最も簡単にオーケストラ内部の不満をなくせますので、多くのアマチュアオーケストラがとっていると思います。しかし、オーケストラで奏いて見たい人は、すでに入団している団員だけではありません。少し先に入団したという理由だけで限られた人だけが合奏の楽しみを独占してよいはずはありませんし、へい害もあります。

このように、先に入団した人もこれから入団しようとする人も団員としての差がないという考えにたちますと、末端はこれから楽器を始めようとする人にまで続きます。つまり、団員の技術の差はきわめて大きいわけです。この問題をどうやって解決するか、私たちだけでなく、これはアマチュアのオーケストラや合唱団に与えられた大きな課題なのです。

<オケを分離した理由> アマチュアオーケストラでは、通常やさしい曲から始めて、次第にむずかしい曲に取り組んでゆきますが、かなり進んだ時期に、最初のやさしい曲から練習した方がよい人が入団を希望したらどうしたらよいでしょうか。その人の技術をテストして、無理なようだったら入団を断わる、というのが通常とら

LEA POCKET SCORES
THE AUTHORITATIVE NEW STUDY SCORE

既刊130巻 各￥450 呈総目録

BACH（バッハ協会版）
無伴奏Violin 奏鳴曲集・Cello 組曲集
フーガの技法
モテット集（全2巻）
185 四声コラール集
復活祭オラトリオ
無伴奏Violin 奏鳴曲集・Cello 組曲集
6 Violin とハープシコード奏鳴曲集
3 Cello（ガムバ）奏鳴曲・7 Flute 奏鳴曲
音楽の棒物・3三重奏鳴曲集

BEETHOVEN（原典版）
ピアノ奏鳴曲 全32曲 全5巻
弦楽四重奏曲 全17曲 全4巻
ヴァイオリン奏鳴曲 全20曲 全2巻
チエコ奏鳴曲 全5曲
ピアノ小曲全集
歌曲全集

BRAHMS（"URTEXT"原典版）
ピアノ奏鳴曲（全曲）
Violin 奏鳴曲（全曲）
Cello 奏鳴曲・Clarinet 奏鳴曲

CHOPIN（"URTEXT"原典版）
25前奏曲集・2奏鳴曲・幻想曲ホ短調
エチユード作品12, 15 及遺作（全曲）

MENDELSSOHN（"URTEXT"原典版）
ピアノ無言歌集（全曲）
オルガン曲集（全曲）

MOZART（"URTEXT"原典版）
ピアノ奏鳴曲と幻想曲集（全2巻）
Violin 奏鳴曲と変奏曲集（全3巻）
ピアノ三重奏全曲（全二巻）(No 1～4. 5～8)
リート集（歌曲全曲）英訳テキスト付

SCHUBERT（原典版）
ピアノ奏鳴曲全曲（1～3)(6～12)（13～15）
ピアノ小曲全集（全2巻）
Violin 曲（全曲）ロンド作品70
幻想曲作品 159；奏鳴曲作品 137, 162
弦楽四重奏曲 全15曲（全3巻）
〃水車小屋の乙女〃〃白鳥の歌〃全曲
〃冬の旅〃全曲

SCHUMANN（"URTEXT"原典版）
謝肉祭作品9．幻想小曲集作品12
交響練習曲作品13・幻想曲作品17
ユーモレスク作品20・ダビッド同盟
作品6小供の情景作品15・クライス
レリアナ作品16トッカータ作品7
"詩人の愛""婦人の愛と生涯"
"ハイネ詩集""アイヒエンドルフ詩集"
（英訳テキスト付）

LEA Pocket Scores 日本総代理店
アカデミア図書株式会社
東京 本郷2－1. 電話(811) 5743-7361

れている方法です。しかし前述の考え方から、私たちはこの方法をとりませんでした。とすると、その人はむずかし過ぎるので自ら退団するか、なんとか無理をしてついてゆくかです。退団されては残念ですが、無理してついてきてもらってオーケストラ全体のレベルがいつも最低の線で妥協しなければならないのは問題です。こんどはトップレベルの人が不満をいだき退団したり、あるいはかなり上手な人が入団しようとしてオーケストラのレベルに失望して、入団を取り止めることもありえます。

この状態を打破するには、上手な人もあまり上手でない人もそれぞれ自分のレベルに適したオーケストラで奏くことができるような形にしなければなりません。私たちはそれまでの新響を二つに分離することに決め、討論と準備に1年近くを費やして1960年6月にようやく実現しました。そして第一オーケストラに所属するには、ある程度の技術が必要だということでテストを受けなければならないが、第二オーケストラはいままでどおり自由に入団できるようにしました。

しかし、この大手術は間もなく効を奏し、分離前2～3年間の停滞を打ち破り、両オーケストラともメンバーが急増し、技術の向上も目立ってきたのです。こうして二つのオーケストラはそれぞれ演奏会をもち、第一オーケストラは新響創立以来の夢であった東京労音例会に出演するなど活発な活動をしました。

やがて、第二オーケストラはかっての例と同じように二つに分離し、第三オーケストラが誕生しました。さらに、管弦楽の中では弦に比べていささか出る幕が少なくて物足りないという元気な管楽器奏者や、管弦楽の中では使われない管楽器の奏者が集まり、マーチばかりやっているブラスバンドでないシンフォニックなバンドを作ろうということで新交響吹奏楽団が生まれました。

＜各オケのはたす役割り＞ 以上四つの楽団のうち、吹奏楽団は別として、第一～第三オーケストラはプロ野球の一軍、二軍とは意味が違います。アマチュアだから下手でよいというわけではありませんが、楽器を始めた時期経験年数、練習に費やせる時間などなど、もろもろの条件から技術に差の生じることは止むを得ないことでしょう。第一～第三オーケストラは、そうした各レベルの人に適するようになっていますが、各オーケストラのメンバーの技術はもちろん、オーバーラップしており、なかには勤務の都合であまり多く出演できないとか練習日が具合いが悪いとかの理由で自分のレベルより下のオーケストラで奏く人もあります。そして、この各オーケストラは回数こそ違いますが、それぞれ演奏会をもっています。このことは第二、第三オーケストラが第一オーケストラの二軍、三軍ではないことを示しています。たとえ下手であっても、私たちの練習の成果を多くの方に聴いていただきたいというのが新響創立以来の一つの方針でもあります。必ずしもその目的を達せられるかどうかはわかりませんが、一人でも二人でもの方がこれから楽器をやってみようとか、アンサンブルを作ってみようとか決心されることを望み、そしてゆくゆくは全国どこの市どこの町に行ってもアマチュアのオーケストラがあるようになることを私たちは夢見ています。（高木慶三記）

芥川也寸志へのオマージュ

木　村　重　雄

芥川さん。あなたが世を去られたいまになって、繰りごとをのべるのは、本意ではありません。しかし、こうして現実的にあなたを喪なったいま、残されたわたしたちとしては、それとともになくなったものがなにかを、ふかく考えずにはいられない。日本の作曲家としてのあなたは、オペラ＜暗い鏡＞をはじめオーケストラの作品や声楽曲など、これからもきくことはできるし、ご自分ではあたためていた音楽や、さらにこれから発展するであろう萌芽などもあったでしょうが、まず満足はできないまでも、あなたを感じることはできます。そして、いくつかの真面目(まじめ)でユーモラスで、一寸シニックなあなたの真面目（しんめんもく）をつたえる著述によって、「あ、いまは亡い芥川也寸志はこういうひとだった」と偲ぶことも、必ずしも不可能ではない。しかし、あなたが日本の音楽を支えるためのエネルギーとして求めた市民生活のなかでの存在はどうか。ＴＶ番組＜私のクイズ＞の司会で、あなたの魅力でようやくクラシック音楽にも関心をもちはじめた日本全国に及ぶ五万人もの市民は、どこに行ったらよいのでしょう。それに「大阪労音」で構成された＜音楽市場、今日開店＞で、やっとクラシックがそうしちめんどくさいものばかりでないということがわかり、以来あなたの日常的な活動により、やっと興味をもち始めたひとは。いや「東京労音」の「新交響楽団」であなたの意外に精悍でたくましい指導力により、どんなにつらくても演奏は楽しいことがわかりかけた者にとって、あなたをなくしたいま、今後二度とオーケストラをすまいと思うほどの衝撃なのでした。いや、オーケストラのメンバーだけではなく、勿論それをきく市民たちにとっても、もう二度とあの長身からふりおろされる熱情的な指揮棒がみられなくなったのは、たださびしいといってすむことではありません。

最後に、あなたのたましいのご冥福をこころからお祈りすると同時に、生きているうちにこうしたことを言わせずにすむよう、ご健康とご多幸とを、あわせてお祈りする次第であります。　（64. 5. 7）

★座談会★ 新響メンバー大いに語る

☆出席者(ABC順)☆
原　紀久子（第2バイオリン）
林　　誠（第1バイオリン）
中村一郎（フルート）
小田島共子（第1バイオリン）
榊　善勝（コントラバス）
高橋秀典（オーボェ）
高浦ひろみ（第2バイオリン）
戸田昌宏（トロンボーン）
（司会）　松永　昇
＜5月10日＞

司会　私たちはみな職場をもち、仕事や学業の合い間に練習をし、演奏会活動を続けているわけですが、本職と音楽を両立させるためには、いろいろな苦労、さては珍談奇談があろうかと思います。今回は、それらを存分に披露していただきたいと思います。

●楽器をはじめた動機など

司会　最初に、楽器をはじめた動機や、はじめてからの年数について……。もっとも年令がわかるので、女性には悪いかな。最初に林さんから。

林　両親が音楽好きでしてね。家でレコードなんかよくかけるんですよ。そんなことに影響されてか自分でやりたいと思うようになり、小学5年のころからはじめています。

高浦　はじめたのは小学校3年のときです。動機といえば、家にバイオリンがあったからということでしょう。もちろん自分の希望ではじめたわけです。先生は、近所で見つけて習いました。

司会　委員長の戸田さんは？

戸田　はじめたのは、いつだったかな、20か、21才でしょう。よくおぼえてない。それから6年ぐらい……。年がわかってしまうね。

高橋　僕なんか、自分でいうのもなんだけど、家庭的にいろんな悩みがありましてね。それから逃避するようかたちで、学校の吹奏楽団にとびこんだんですよ。10年前の話です。はじめはクラリネット、2年ほどしてオーボェに転向し、現在にいたるというわけです。

司会　小田島さんは？

小田島　私の兄がバイオリンをやっていたんです。面白そうなものですから、ついはじめてしまって…。小学校6年のときですから、もう8年たってしまいました。兄は、もう止めてしまったんです。

原　私、小学校のころピアノをやっていたんです。ところが中学は、別に音楽学校ではないんですけど、音感教育を重視しているもんで、弦楽合奏団なんかあり、合奏に加わるためバイオリンをはじめたというわけです。

榊　みなさん、とても素直な入り方ですね。僕なんかテンデ邪道の方に属するんですよ。音の出るのは何でも好き、音楽のスタートも古賀メロディーをギターやアコーデオンでやり、ついにブラームスへ到達したしだい。（笑い）

中村　僕はみなさんに比較すると少し遅いんです。はじめたのは高校3年のとき。音楽の先生がよくてね。レコード鑑賞なんかよくさせましてね。いまフルートをやっておられるのは、この先生のおかげですよ。でなかったら、いまごろは会社の帰りにパチンコ、マージャンをやるぐらいしか能がなくなってたかも知れない。とにかく、この先生には感謝しています。

●新響の「よさ」はここだ

司会　ところで、新響の他にもアマチュアのオーケストラはありますし、また大学のオーケストラなどもあって、それぞれ特色があると思うんですが、これら他のオケと比較した新響のよさとはどういうところでしょうかね。高橋さんあたりから…

高橋　僕ね、正団員になる前、一度エキストラで新響へきたことがあるんですよ。そのとき、ビックリしましたね。弦がよくて、そして数が多いときている。断然入りたくなったね。（ヤジ）女性も多い……。
（一同笑い）

高橋　いや本当ですよ。それに低音が充実しているんだ。こんなに低音弦がしっかりしているアマオケってのははじめてでしたね。それに、金管がよかった。

榊　たしかにパートがそろっていますね。私ら、主に6大学のオケをまわってみたんですが、どこへ行ったって必ず何かが欠けています。

中村　私が入団したのは、チャイコの5番を練習していたときなんですけど、木管もファゴットから全部いるし、合奏がとても楽しかったことを思い出しますよ。

司会　小田島さんは朝日ジュニヤオーケストラにおられたということですが、比較するとどうですか。ジュニヤには相当達者な人がいるということですけれども……。

小田島　ひとくちにいったら、子供と大人の違いといえそうね。響きが……。

●結婚費用が楽器代にばけるということ

次回演奏会のお知らせ　次回の演奏会は、日時、場所など確定はしておりませんが、8月下旬に開きます。曲目は、ヨハン・シュトラウス　こうもり序曲、チャイコフスキー　白鳥の湖組曲、ミュージカル（南太平洋、マイ　フェアレディ）名曲集などで、楽しいポピュラーコンサートです。どうぞご期待ください。

司会　オーケストラの場合は、楽器の良し悪しが相当ひびいてくると思います。しかし、これがまた良いお値段で買うのに苦労なさったことと思いますが、そのへんの事情を。

高橋　私は、最初借り物の楽器でしてね。しかし、これじゃいかんというので3年ほど前自分のものを持つことに決心したんです。しかし高いんですよ。オーボェは日本にはないでしょう。そこで、楽器屋で18万円というのを見つけて12万に値切りその上、6万円を先払いして、あとの6万を2回のボーナスで払ったわけです。この1年間、まったくつらかったですね。コッペパンと水だけなんて食事が続きましたよ。おかげで、未だに結婚できない。（苦笑）

戸田　僕も楽器のおかげで結婚できない方なんだ。（笑）僕は大体、良いものを見ると矢もタテもたまらなくなる方でね。数年前、日本楽器で良いトロンボーンを見つけたんですよ。それが12万円なんだ。しかし欲しいものはどうしても手に入れたく、貯めていたなけなしのお金を全部はたいてしまったんです。

司会　まったく楽器てやつは、上を見るとキリがありませんからね。

高橋　ちょっと良いオーボェが30数万円はするんですよ。目標にしようかしまいか思案しています。下手をすると、葬式代もかせげなくなるんじゃなかろうか。（笑）

司会　女性の方は如何ですか。みなさん、お母さんにねだったりして……(笑)。

原　兄がドイツへ行ったとき、買ってもらったんです。100ドル（3万6千円）だったんですけれど、日本で買うと税金が高いんで、おそらく10万円ぐらいすると思います。

●楽器を練習するナヤミ

司会　良い楽器があっても、練習しないのでは宝の持ちぐされ……。それぞれ練習には苦心なさっていることと思いますが、その裏話などを聞かせて下さい。

中村　私の練習場所は会社ですね。それも残業している人さえ帰ってからやるので、はじめるのは9時か、遅くなると11時ごろ。でも、誰もいないガランとした部屋はよく響きます。気持ちがよいですよ。

高橋　オーボェは音がよく透るんでナヤミのタネですね。アパートで練習を始めると隣りのラジオの島倉千代子女史がトタンに大声になる。（笑）しょうがないから、会社でやります。10分でも20分でも、おひる休みを利用するわけです。

中村　私は団地にいるんですよ。入った当時、投書がきましてね。“静けさは皆のもの”なんて書いてある。（笑）そうかと思うと、団地新聞に「○○団地は、ピアノやサキソホンの音がうるさい」なんてことがのっているんですよ。どうも私のフルートがサキソホンに聞こえるのかと、だいぶヒガんだもんです。

司会　バイオリンやっている女性の方は、首すじのタコを気にするんじゃないですか。

高浦　会社へ入った当座、左どなりの人が「あなたのヒフ病ずいぶんガンコだわね」なんていったりして……。でも気にしていません。

中村　バイオリンのタコは、僕らにとっては非常に魅力的ですよ。

高橋　バイオリンのケースをぶら下げている人にあうと、つい首をみてしまう。タコが小さいとガッカリ……。（笑）

榊　ヒゲ面の人はタコに炎症ができるといいますね。

戸田　トロンボーンはヒゲがあるといいんだ。マウスピースがすべらなくて具合いがとてもいいんです。

高橋　トロンボーン奏者は毛生え薬を塗ったらどうかな。（笑）

司会　だいぶ話が脱線しかけてきましたので、このへんで終りたいと思います。どうもありがとうございました。



ちょっと一言

岡　田　和　夫

東京だけでも、アマチュアのオーケストラや合唱団の数は相当なものだと思うが、僕にはあまり手ばなしで喜んでばかりいられないような気がする。というのは、それぞれが閉ざされた世界の中で、適当にほめあったり、なぐさめあったりしているような団体や、閉ざされた心の持主があまりに多すぎるのではないかと思うからだ。

わが新響は、もっと大きな世界を指向しているはずだが、新響といえども、うっかりしているとそんなおとし穴にはまりこんでしまう危険をいつももっているのだと考える。この意味で、今日の演奏が、新響（そして第1オーケストラ）の存在価値を明らかにしてくれるものと期待している。

なにしろ、次男坊・三男坊があとにひかえているのだし、更に生めよ殖せよというわけだから、いい演奏をしてもらわないと困るのである。（2、3オケ指揮者）

芥川さんへのことば

大町陽一郎

芥川さんが、家にみえたとき、「私の音楽該義」という自著に、サインして下さった。芥川也寸志という字が、洒脱な字体と共に私の目には一種の感慨をもってくるのは、私が文学少年だった頃、芥川竜之介の小説を愛読したあの当時の畏敬の気持が、未だ心の底にあるからに違いない。「トロッコ」という短篇を物凄い同感と感激で読んだことが想い出される。芥川さんの作曲を何度かオーケストラで演奏するようになって、ロシアで出版されたオーケストラ総譜に書かれてあったローマ字の YASUSHI AKUTAGAWA という名前を見たことがあった。このとき、日本字からくる字体の美しさが、いかにそこなわれて、陳腐な迫力のない名前になっているかということを眼のあたりにし漢字っていいなあと思ったりしたこともあった。竜之介ほどの凄味はないけれど、也寸志という字は実に芸術的な感覚をもっていると思う。

その芥川さんが労音のオーケストラを育成されて、その成果を発表されると聞き、これまでにもってこられた氏の努力と、また氏が内外でされているクラシック音楽を大衆に解りやすく滲透させたという功績は、バーンスタインの活躍を思い起させるほどで、司会もやれば指揮もする、文章は音楽界一だし、その博識はだれもがかなわない。しかし芥川さんの本領は作曲である。いや、そうあって欲しいのである。マーラーが片手間にウィーン国立オペラの指揮者として生活しつつ夏休みに九つの交響曲を書いていったように、芥川さんもいつか生涯の力作を残されるに違いない。そうでないと我々指揮者は困るのである。

（指　揮　者）

団員募集

新響には四つの団体――第1～第3オーケストラ、新交響吹奏楽団があります。私たちは、いつでもあなたのお出をお待ちしています。

詳細は、労音事業部（Tel. 351―5191）または直接練習場（東京文化会館リハーサルB室、上野駅公園口正面）へ。練習日は、現在毎週、土曜（1オケ）、日曜（2オケ）、火曜（3オケ）となっています。



お楽しみページ

音楽の綜合出版

音楽之友社

東京・新宿・神楽坂 6—30
振替　東京　196250

芥川也寸志の快著

私の音楽談義

もともと音楽鑑賞の手引、という目的のために書かれたものでありますが、生活を通して音楽を語ってゆくことが、私のまず第一のネライでありました。ですから音楽上の約束事にかんする説明や、いわゆる楽典講座に類する筆運びはできるだけ避けることにいたしました。（著者）

・音楽書として異例のベストセラー！　ご存知の本！

¥ 260

音楽の現場

〈わが犯罪的音楽論〉

この音楽論はインタヴューの形式をとっておりますが、対象となっている方々の生活や、思想を浮彫りすることを目的としたものではありません。きわめて冷酷に、私にとって興味のあるお話のみを拾わせて頂いたに過ぎません。……（著者）●とケンソンしながらも読み出したらやめられぬ本である。

¥ 290

名曲レコード全集

〔全6巻〕　★印既刊

1 交響曲★
2 管弦楽曲
3 協奏曲★
4 室内楽曲
5 歌劇★
6 声楽曲

レコードを愛する人々のための新全集。楽種別・作曲家別にした曲の解説を軸に、その優秀レコードの紹介と批評を豊富に盛った。専門評論家多数が執筆。

編集顧問
堀内敬三
野村光一
村田武雄
藁科雅美
小林利之

■各巻 新46判 三八〇円

● 好評新刊！





ゆたかな音量
美しく微妙な音色

フクヤマピアノは60余年の伝統と
独自の〈量産管理〉から生まれた
“音の芸術品”です

フクヤマ
ピアノ

■本社　千代田区神田錦町２
電話（291）0361代

■渋谷店（402）2577・9　■銀座店（571）4083・0365　■横浜店（64）2336・7

Very Good FŪSHA

コーヒーから→ジョニーウォーカーまで
サンドウィッチから↷お茶漬まで
スパゲッティから〜うなぎ飯まで
昼11時から☀夜2時まで

喫茶・レストラン 風車

市ヶ谷駅前
TEL(331)3682



季節料理

しゃらく

赤坂・山王下　(481) 4966

新発売！

キャップを取らずに使える 新しい容器入り



液体
花王フェザーシャンプー
ピンク（一般用） グリーン（乾性用）

●一般の方は「ピンク」で、しっとり、つややかな髪に洗い上がります。
乾性で、パサパサになりやすい髪の方は、「グリーン」をおつかい下さい。
アブラッ気をとりすぎることなく、髪にしっとり感をあたえます。
●スマートな容器、美しいピンクとグリーンの透明な液…
夢を呼ぶ高級シャンプーです。
●容器が透明なポリびんなので、使った分量がひと目でわかります。また、落としても割れません。

一本百円（200cc入り）

花王

花王石鹸株式会社